

学校目標・経営方針	自己実現を目指すために、学ぶ意欲、問題解決能力、個性豊かな人間性を養う
-----------	-------------------------------------

山梨県立北杜高等学校校長 河手 由美香

本年度の重点目標	1 主体的・対話的で深い学びを目指す。 2 問題解決能力及び共生・共感を培う人間関係づくりを推進する。 3 自主自立の生活の向上を図り、個性豊かな人間性の育成に努める。 4 家庭・地域・関係機関への教育活動の周知及び連携の促進を図る。 5 「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る。
----------	--

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価			年度末評価(令和6年3月1日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体的・対話的で深い学びに向けた指導の充実	①やまなしスタンダードを活用し、授業の理解度70%以上を達成できる授業づくりの工夫改善に努める。 ②シラバス、学習の手引き、スタディサブリを活用し、基礎学力及び家庭学習の定着に努める。 ③ICTを活用し、授業準備の効率化や負担軽減に努める。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど	①「私は、授業の内容の70%以上は理解している」と回答した生徒は79%であった。また、91%の生徒と63%の保護者から「学校は授業をわかりやすくし、学力向上するための工夫をしている」との回答を得た。 ②平日の家庭学習時間は1～2時間が最も多く、44%であった。休日においては、1～2時間が最も多かった。一方、94%の生徒が、「学校は、授業外の学習により知識や技能を活用する場を用意している」と回答している。また、91%の生徒が「学校は生徒の学習・活動に対して意欲・関心を引き出すように働きかけている」と回答している。これらの働きかけにより、「私の家庭学習時間は昨年よりも増えた」と答えた生徒が53%と過半数に上った。 ③ICT活用研修「ICTサロン」を年間35回開催し、教員のスキル向上を図り、授業準備の効率化の一助とすることができた。	B	①一人一人の可能性を引き出すICTを日常的に活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した主体的・対話的で深い学びの授業改善を、学校の課題として会議等で明確に位置づけ、教科主導でやまなしスタンダードの活用在り方、指導方法の工夫、観点別評価の確実な実施を図る必要がある。特に新課程におけるBYOD導入に伴う授業改善は早急に取り組む。 ②・③将来への見通しをもった生活を基盤として、家庭での自立した学習習慣の確立を目指し、保護者等と双方向的な情報共有(ICT活用含む)を促進する必要がある。
2	問題解決能力及び共生・共感を培う人間関係づくりの育成	①様々な体験活動や部活動等への積極的な取り組みを通して、コミュニケーション能力を高める。 ②自己を正しく理解させ、在り方や生き方について考えさせる取り組みを実践し、自己有用感や充実感を育む。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど	①・②積極的に活動していると回答した生徒は85%であった。また、90%の生徒と73%の保護者が「学校は部活動が活発であり適切に指導している」と回答。さらに、85%の保護者が「学校は、学校行事における生徒同士の協働を通して、社会性を育てようとしている」と回答した。これらの取り組みを通して、人間関係を良好にできたり、北杜高校生としての自覚をもっている」と答えた生徒が94%であった。	B	①部活動・委員会等の取り組みは、高い評価が得られている。次年度は、コミュニケーション能力をさらに高めることを目指し、自主的なボランティアや地域連携活動等、生徒の主体性を引き出す運営と指導に努めていく。 ②自己理解や、生き方について考えさせることに特化した「教育相談便り(R4年度より発行)」やソーシャルスキルを学ぶためのツールが適時適切に活用された。次年度は、HRの在り方・運用の仕方・内容の具体化を図り、体系的に取り組む必要がある。
3	自主自立の生活の向上を図り、個性豊かな人間性を育成する	①基本的な生活習慣の確立及び集団生活のルールやマナーを身につけさせる。 ②生徒の主体的な活動を推進し、自主自立の精神と道徳性の向上に努める。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど	①・②ほぼ100%の生徒が校則や社会のルールを守っていると回答している。また、「基本的な生活習慣」について、88%の生徒と74%の保護者が「生徒に身につけさせている」と回答している。「ルールやマナー」については、学校が適切に指導していると答えた生徒は97%で保護者は77%であった。	B	①生徒が基本的な生活習慣を確立し、集団生活のルールやマナーを身につけることができよう、継続して丁寧な指導をしていく。 ②保護者等と緊密に連携し、生徒へ啓発的な情報発信を行うとともに講演会等の行事を充実させながら、個性豊かな人間性の育成に努めていく必要がある。
4	家庭・地域・関係機関への教育活動の周知及び連携の促進	①学校ホームページや便りによる情報発信を工夫し、ホームページ等の充実を図る。 ②地域の企業や関係機関との交流を深め、地域に開かれた学校づくりに取り組む。 ③授業等において効果的な外部人材の活用に取り組み、業務の役割分担・適正化に努める。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど	①生徒の91%が「公開授業・PTA総会・学園祭・強歩大会など学校行事を保護者に伝えていた。一方、学校が情報を適切に伝えていた」と回答した保護者は、82%であった。 ②「学校は、生徒が地域を理解し、地域に貢献するための機会を設けている」と回答した生徒は93%で、保護者は84%であった。 ③地域人材を活用した講演会等を実施できた。また、体験的な授業での活用も行うことができた。	B	①生徒の活動や学校の状況について、可能な限りスピード感をもってHPやTeamsで発信できた。次年度もスタディサブリの保護者連絡ツールの機能も引き続き活用し一層充実した情報発信に努めていく。 ②・③北杜市における食と農を生かした住み続けられるまちづくり推進プロジェクトの一環である「食社北杜」の本校生徒の取組や4バーミル・イニシアチブの授業実践、国際交流に関する企業見学や台湾へのインターンシップなどを推進できた。次年度も、県・市・企業・保護者等と一層の連携を図り取組の充実を努めていく。
5	「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る	①条例に定めのある勤務時間を周知し、自主的・自発的な勤務時間管理を徹底し、働きやすい学校を目指す。 ②ICTを活用した校務効率化の促進	勤退管理システムの集計表、職員評価アンケート	丁寧な対話を重ねながら生徒理解に努め、一人ひとりに対応している教員は100%であった。そのうち70%が「私は、勤務時間外の業務時間を意識し、時間外勤務をしないようマネジメントしている。」と回答している。	B	試験期間中の採点日の設定や会議のある日における短縮授業を実施できた。次年度は、ICTを活用した記録を活用し迅速な情報共有を組織的に行えるよう取り組み、一層の効率化に努めていく。

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月8日)	
評価	意見・要望等
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の習慣付けのため、保護者等との対話も重要な手段となると考えられる。様々な機会の設定に期待する。</li> <li>現代社会の課題解決を探ることができる食社北杜の取り組みをはじめ、総合学科の特色を全面に出していくことを期待する。</li> <li>授業や学習のめあてを明確にすることが大事なので、そのような授業を組み立てていくと良い。</li> <li>ICTを活用して、授業づくりを工夫している。一方でICTに偏り過ぎず、従来の「見る聞く話す書く」ことも大切に、デジタルもアナログもバランス良く利点を活かせるとう良い。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動をはじめとする全ての教育活動の場面において、課題や問題点が発見できるとともに、解決のための基本の流れを理解し、実行できるような一層の体制づくりを期待する。</li> <li>学園祭等リアルでの活動を通じて問題解決能力やコミュニケーション能力のより一層の醸成を期待します。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任の先生の教育相談の技術を身に付けられる仕組みや学校の教育相談の体制を整えることを引き続き充実させていってほしい。</li> <li>一人一人の子供たちの良さを理解し、認めていく対応が今後ますます期待される。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報公開は十分にされている。校外活動で生徒の活動を見かけることも多く、今後も体験的な活動の積極的な取り組みが期待される。</li> <li>学校内での問題に関して、今後はますます多様化・複雑化することと見ます。現在の外部機関や地域との連携をさらに充実させて対応していくことが望ましいと考えます。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちのために長く働くためにも心身の健康は大事である。その観点でストレスチェック、健康診断等を自分事として引き続き受けることを期待する。</li> <li>教員の働き方は重要な課題と考えます。より一層のICTの活用による事務作業の効率化を望みます。</li> </ul>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。